

杜氏の郷の長期借入金損失補償問題

市とJAとの間で基本方針などを協議

文教経済常任委員会の所管事務調査が11日行われ、(株)杜氏の郷長期借入金損失補償問題が取り上げられました。

冒頭、上越市の村上観光局長が先月の常任委員会以降の動きについて報告(写真)しました。それによると、杜氏の郷の筆頭株主であるJAと3回にわたり二者協議を行い、会社を含めた三者協議も1回行ったとのこと。

二者協議で基本方針確認

このうち、JAとの二者協議においては、基本方針として2点の確認をしたといっています。



1点目は、補助金の返還をさせ事業継続を図ること。これを前提に、事業にかかわった「それぞれの責任」を明らかにしながら、その方法や体制などを協議していくことです。

2点目は、会社が作成した「経営改善計画」に関しては、売上等さらに厳しい状況が考えら

れることから、第三者の専門機関などの評価を受けるとともに、再建を前提として議論するなかでは、長期借入れに対する市の損失補償、短期借入れなどを含めて何らかの方法で現在の会社が負っている「債務を圧縮すること」が必要であるということでした。

こうした二者協議の下、今月5日には会社を含めた三者協議が行われました。そのなかでは、二者協議で浮き彫りになった問題について会社経営陣は真摯に受け止め、あらためて役員意思統一をはかるため協議をすることを明らかにしたとのこと。この協議のなかには、会社が作成した経営改善計画について、中小企業診断士などの専門家の評価を受け、改善点を見出すことも含まれているとの報告でした。

委員からは厳しい意見相次ぐ

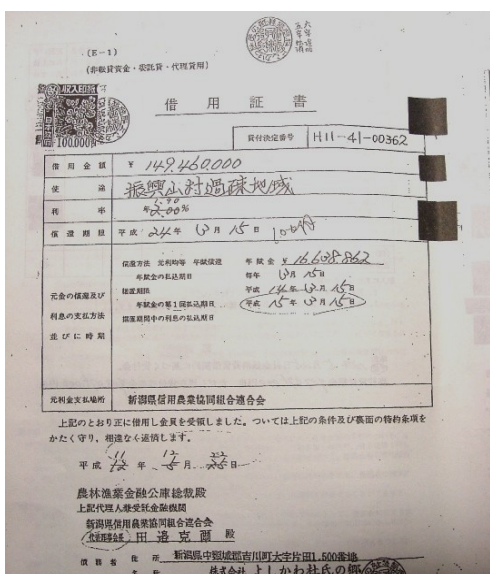
(株)杜氏の郷についての長期借入金損失補償問題についての調査に入った時間は午後7時をまわっていました。朝からの委員会審査で委員の疲れもピークに達しているかと思いましたが、長時間にわたる審査となりました。

委員からは、「地域事業費をあてて損失補償した場合、(当初予定した事業が)減らされ、地域住民にも痛みを伴う。このことを住民の皆さんに理解していただいたうえで判断していただくことが必要ではないか」「JAや会社などとの二者協議、三者協議のご努力は評価したい。再建の方向で考えていくことが大事だが、それには、それぞれの係わりのある人たちが、団体の責任を明確にしていくことが前提だ。それがないと市民の理解が得られない」

「社長が変わらない、責任もとらないなかで経営改善ができるのか。会社の株主総会での判断を待つて議論すべきだ」など厳しい質問や意見が相次ぎました。この日の文教経済常任委員会が終わったのは、なんと午後8時半過ぎでした。調査はこれからも続きます。

借用証書の写しも公開

この日の委員会では、(株)杜氏の郷が当時の吉川農業協同組合及び農林漁業金融公庫から借りた際の金銭消費貸借証書、借用証書(写真)の写しも公開されました。同時に連帯保証人(全部で3名)の名前も同意を得られなかった1名をのぞき明らかにされました。



11日公開された借用証書の一部です。黒塗り部分は実印です。このほか、連帯保証人加入及び脱退証書も公開されました。



【シロバナサクラタデ】 稲刈りの頃に咲く白い花。小さな花びらはまるで桜そのものです。これと似た花にサクラタデがあります。こちらは少しピンクが掛かっています。吉川区内では下町、山方、吉井、代石などで見られます。タデ科。

春よ来い 第九八回 ワラ集め

稲刈りのシーズンがやってきました。車の窓を開けると、実った稲の甘酸っぱい匂いが入りこんできます。この時期になると、私はこの匂いととも、ワラ集めの仕事を思い出します。

酪農をやっていたわが家にとつて、秋の一番の仕事はワラ集めでした。ハサがけのワラがあった時には耕運機にのせて運んだことが忘れられません。あらかじめ何軒かの稲作農家にワラを売ってほしいと頼んでおくと、稲こき（脱穀作業）が終わった時点で、取りに来てほしいと連絡が入ります。軽トラックがなかったころの運搬手段は耕運機でした。耕運機の荷台に、それこそ、ワラを山のように積んで運ぶのですが、積み方やしばり方にコツがありました。ワラの束を交互に組んで積む。山になった荷を縦横に一定の間隔でしつかりとロープで結ぶ。このことがちやんとできていないと、運んでいる途中で荷が真つ二つに割れてくずれてしまうことがあります。それも、もう少しでわが家の牛舎に着くという時にくずれるのです。当時は砂利道です。大きめの石にタイヤが乗り上げて荷が割れて傾いたり、場合によっては、耕運機の周りにワラがバサツと落ちる。そんな時はくやしき思いをしました。

また、雨が降りそうな時は緊張しました。荷にブルーシートをかけて運べば安心していられるのですが、運ぶにあまり時間がかからない距離であればシートなしで運びたくありません。いつ雨が落ちてくるかびくびくしながら運ぶことがたびたびでした。

ハサがけのワラがほとんど入手できなくなったのは、コンバインが普及してからです。ハサがだめとなれば、刈り取りが終わった田んぼの稲ワラをもらって集めるしかありません。田んぼに落とされた稲ワラを一日ほど天日にさらし、それ攪拌（かくはん）して乾かす。ワラの列をつくる。ワラを梱包（こんぼう）する。その作業を機械でやり、集めました。この作業はトラクターの後ろに攪拌、集草、梱包の機能を持ったアタッチメントを作業の種類ごとに付け替えて行いました。

ここでも一番の心配は空模様でした。ワラ集めの作業をする時は電話で177をまわしました。高田測候所の最新の天気予報を聞くことができたからです。この情報が一番確実で、あてになるものでした。予報はたしか三時間ごとに発表されていたように思います。稲の刈り取りが終わった時から、晴れの天気が続く場合、約四日間あれば乾いたワラとして収集できました。予報で数日間の天気の移り具合を確認した上で作業に入りました。晴れの天気が続くと続くこともありますが、せいぜい二日か三日です、続くのは、なかなか続きません。なかには乾いて、「さー、梱包するぞ」という段になって、雨がザーッと降ってくることもありました。

切なかつたのはいまから二十数年前のことです。コンバインから長いままで生ワラを落としてもらったものの、晴れの天気が続かず、とうとう冬を迎えてしまいました。翌春、田んぼの土にべったりと張り付いたワラを田んぼの外へ上げる作業をすることにしました。機械を使っても張りついたワラをうまく収集できず、手作業で根気よくやるしかありませんでした。

わが家のワラ集めを記録した写真がたった一枚だけ残っています。下中条のカメラマン・平田一幸さんが撮ってくれたものです。私がトラクターに乗り、乾いたワラの梱包作業をしていて、上半身裸の父が後ろから歩いて歩いている写真です。わが家の牛飼いは、この父が牛に餌をくれることができなくなって終わりとなりました。

【議会に提出された「杜氏の郷経営改善計画書」の概要②】

【販売促進方針】

新規に参入した酒蔵の会社経営は、「良い酒を造れば売れる」の精神でスタートしたものの、顧客の掘り起こしの難しさという壁に突き当たり、どこにお客がいるのかすら見えない手探りの状況でありました。

特に酒造業界は、古くから製造、卸、小売の関係が強く、新規の酒蔵にとって既存の販売組織体系に参入することは容易なものではありませんでした。このような中で、卸を主体に販売を展開することなく、こだわりの小売店を中心に通信販売やイベント参加から新たな顧客の発掘に活路を見出してきました。

ようやくここに来て、鑑評会で受賞するなど清酒に対し一定の評価を得る中で、顧客動向を見据えた販売戦略を立てることができるようになってきました。

現状は、卸で減少傾向はあるものの、小売や業務店での売上が増加傾向にあり直販も「道の駅」の効果浸透し、売上が着実に伸びてきています。この伸張状況から毎年1%の売上増加に努めるため下記の方針を持って販売を促進するものであります。

一方、上越市内の販路を拡大するうえで、吉川区内からこれまで以上に需要が高まるよう働きかけを行う所存であります。

- (1) 新規開拓及び業務店への営業活動
- (2) 売店での直販活動
- (3) イベントの参加による販路の開拓
- (4) お客様への恒常的フォロー
- (5) 商品開発と商品力の向上
- (6) 通信販売の強化

(いずれも詳細は略しました)



第29回吉川中学校体育祭 紅軍と青軍が同点で両軍とも優勝

7日、吉川中学校で体育祭が行われました。議員としての仕事が重なり、少ししか応援できませんでしたが、いつも感心するのは応援パネルと集団のきびきびした動きです。中学生らしい若さあふれる競技も素晴らしかった。

競技の結果は、紅軍と青軍、ともに445点を獲得し、両軍が同点優勝だったとか。熱戦でしたね。